（様式１・小学校用①）

令和４年度　学　校　評　価　報　告

草加市立氷川小学校
（令和５年２月１０日作成）

１　学校教育目標

「学びあい　助けあって　自分を高める」

目指す児童像　○ひ　ひかる汗　（体）　高めあう子
○か　耀く瞳　（徳）　高めあう子
○わ　わかる喜び　（知）　学びあう子

２　重点目標・努力目標

○子どもたちが伸びる学校
・基礎・基本の定着、授業時間の確保
・一人一人のコミュニケーション能力の向上
○子どもが生き生きとする学校
・あいさつあふれる明るい学校づくり
・保護者・地域と共に歩む学校づくり
○幼保小中を一貫した教育の推進
・谷塚中学校区一貫教育の強化・推進

３　前年度の成果と課題

成果
○行事や学習指導について、工夫改善することによりコロナ禍以前の方向で実施できた。
課題
●柔軟な指導計画を作成し、単元の入れ替えや時数配分の見直しが必要であった。

４　評価表 ※評価基準〔A：十分達成している　B：おおむね達成している　C：やや不十分である　D：不十分である〕

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅰ　学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○風通しの良い職場づくりと好ましい人間関係が形成され組織運営の一助となった。 ●部会→運営委員会→職員会議を簡素化したが内容を深めるべきことや共通理解が不十分な場合もあった。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○授業改善や指導力向上のための研修が行われたことで、学びが深まった。 ○若手教員が積極的に授業を行い授業力が向上した。 ●２年後の発表を踏まえ、来年度以降どのように研修を行うかが課題である。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○健康観察アプリを導入し、全校児童の健康観察を可視化した。 ●アレルギー対応児童が多くいるため、共通理解研修を年度初めに確実に実施しているが、対応に温度差があることが課題である。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報管理にも万全を期した。職員室の故人情報ロッカーの精査を行った。 ●施設設備においては、鍵の老朽化に課題がある。施錠が甘いのではなく、施錠しづらい箇所が多すぎる。次年度、予算の中で改善したい。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○定期的に学校HP上に教育活動の様子や情報を掲載し十分な情報発信をすることができた。 ●PTAが実行を望んでいる「ふれあい広場」の実施に向け、協働して実施できるようにしていく。
	⑥幼保小中を 一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○幼保中と交流・連携できる活動を精選し、工夫しながら３年ぶりに交流を行うことができた。 ●１５年間を通じたカリキュラムの編成については、各学校児童生徒の実態把握から丁寧に取り組む必要がある。

（様式１・小学校用②）

草加市立氷川小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅱ　教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	A	○日課の工夫やサタデースクールの活用により、授業時間が確保できた。 ●授業時数の確保は行うが、教育活動を精選し内容を充実させる。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○研修を充実させることで「伝えあい」に重点を置いた教育活動を行うことができた。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止策のため、外部人材の活用が困難であった。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	B	○自主的に授業研究、教材研究を行う教員が多く、授業力向上につながった。 ●授業だけでなく、道徳的実践力の育成に課題がある。意識的に計画に位置付けていく。
	④外国語・外国語活動	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携	A	○教科担任制を導入することで、レベルの高い外国語教育を実施することができた。 ●Eタイム　英語集会を低学年・中学年で確実に実施し、高学年への素地づくりがさらなる課題である。
	⑤特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動	B	○行事や児童会活動を工夫して、児童が主体となって行うことができた。 ●話合い活動を全校で計画的に進めることで、主体的な児童の活動をより一層、推進していく。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	B	○ICTの活用により、調べたことの発表をデジタルで行うことができるようになった。 ●教科横断的な指導計画が今後の課題である。今後は教育計画の中に位置付けていく。
	⑦生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○組織的な対応に心がけ、生徒指導主任・管理職を中心に特別支援コーディネーター、教育相談主任等が連携を図って課題を迅速に解決した。 ○SC　SSWとの連携も深め、外部機関と連携できた。 ●積極的生徒指導が課題である。未然防止に向け、学校全体で規律や生徒指導を徹底していく。
	⑧キャリア教育	・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化	B	○キャリアパスポートについて特別活動を連携して実施した。 ●低・中学年の発達段階に合わせたキャリア教育の取り組みと一層の活用・充実が必要である。
	⑨特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○特別支援教育と教育相談、生徒指導を連携することで一人一人のニーズに合わせた教育を行うことができた。校内支援体制が充実した。 ●特別支援教育への、学校全体・児童全体への理解と協力体制が課題となった。次年度に向けて改善策を立てた
	⑩学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○読書活動推進の研究により、学校司書・司書教諭が連携した取組を行い、児童の読書貸出冊数が前年比150％増加となった。 ○「おはなし給食」「お楽しみ袋」「読書の日」等の新たな取組も行うことで家庭への啓蒙・啓発を行うこともできた。 ●様々な種別の本に親しむ機会をさらに設けたい。

	⑪情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ＩＣＴ機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○ICT機器を活用しての授業が当然になり、児童や教職員のスキルが向上した。 ●ネットワーク回線の制限があり、一斉に行うことができないときが課題である。 ●プログラミング教育への取組について、全校で系統的に行う必要性がある。
	⑫人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○夏季休業中を活用して校内研修を実施し、全教職員で共通理解を行うことができた。 ●人権感覚育成プログラムを、１部だけではなく全学年全学級が実施できるよう計画していく。

（様式１・小学校用③）

草加市立氷川小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題　○成果　●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	**基礎学力の定着**	**・授業の充実** **・教育計画の工夫** **・家庭学習の充実**	A	○基礎学力は「チャレンジタイム」の充実により、定着してきている。 ●県学調・全学調の質問紙調査等から分析した結果、児童の「非認知能力」を高めることが課題である。学級経営の充実をより一層図っていく。
	コミュニケーション力の育成	**・授業の充実** **・教育計画の工夫** **・指導方法の工夫と改善**	B	○「いきいきと自分の考えを伝えあう児童の育成」に向けて研修を行うことで思考力・判断力・表現力を養い、コミュニケーション力の向上につなげることができた。 ●学習活動だけでなく、特別活動の中でもコミュニケーション能力を育成するための活動を行いたい。
	生徒指導・教育相談の充実	**・組織的な生徒指導** **・問題行動への対処** **・校内支援体制の整備**	A	○児童の問題行動等については、全教職員で報告・連絡・相談が徹底され、解決に向けて迅速に対応した。 ●いじめの防止について早期発見・解決だけでなく、解決後の経過観察を全案件で徹底し、全職員で共通理解して見守っていく。

5　総合評価（学校関係者評価を含む）

・校内体制として、今年度は教職員の連携体制をスムーズに行うことができた。担任から学年主任、管理職と組織内で縦の意識をしっかりと持ち組織的に諸問題を解決することができた。
・教科担任制を行うことで児童の知識・技術が向上し、モチベーションが上がるきっかけとなった。しかし、運動会や行事ごとに時間割を組み替えたりするなどの変更に多くの時間を要した。来年度は時間割の組み方等を検討していく必要がある。
・ICTの活用機会が増えたことにより、授業で使いたいときに回線が混雑して使えないことが増えた。
・コロナ禍３年目となり、行事も比較的新しい形で行うことができた。今後も新しい形を模索して行事に関しては行っていく必要がある。
・ビブリオバトル等読書に親しむ取り組みが多く行われ、読書量を増やすことができた。
・今後、コロナが終結してからの教育活動に期待している。（学校関係者）
・保護者の意向も多様化しており、学校が対応していることがうかがえた。（学校関係者）

6　次年度の改善策

【学習について】
・アフターコロナに向けて、朝行事やチャレンジタイム、放課後の日課等について見直しを図っていく。
・地域に開かれた学校づくりに向けて、カリキュラムマネジメントを行い、単元の入れ替えや時数の配分等、実態に即した指導計画を各教科で作成していく。さらに地域人材の活用を図る。

【研修について】
・G 年間を通じて ICT 機器の活用について、全教員で理解を深めていく。
・幼保小中一貫教育の視点で、１５年間を見通したカリキュラム編成を谷塚中学校区で再考していく。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教科を精選した校内研修の体制を構築していく。

【負担軽減について】
・ペーパーレス化を推進していく。（諸会議のペーパーレス化　保護者への配付書類を PDF 化しメール添付）
・諸会議の統合・精選による時間活用。
・学年ごとの「ふれあいデー」設定。定時退勤を学年ごとに行う。